

岡山大学 知の探研 7 か条

岡山大学は、学部学生の皆さんに「自ら行動を起こすために学び続ける実践者」になってもらいたいと考えています。今日の社会の変化や時代の流れは劇的に速く、過去の例を参考に未来を予測する対応はできなくなっているからです。そのような社会や時代の中においては、自ら学び、考え、地域や社会の人々と協働することにより、自身をアップデートする力が重要になります。

「知の探研」は、大学での学びのスタートにふさわしい科目として企画しています。この科目での学修を通じて、自ら学び、考え、他者と協働する態度や技術を磨くことができます。それは単に知識を蓄えること以上の意味を持ちます。皆さん一人ひとりが自らの学びを深め、未来を築くためのコンパスとなるでしょう。

以下に掲げる「知の探研 7 か条」は、この科目における皆さんや教職員の考え方と姿勢を形作るものです。きっと仲間とともに課題に取り組むための指針となるでしょう。皆さんは、この 7 か条を頼りに自らの可能性を最大限に引き出してください。それは、一人でもチームでも、大学での学修を進める準備を整えることにつながります。

第 1 条 関心を寄せる

第 2 条 協力を惜しまない

第 3 条 方法を再考する

第 4 条 現在地を知らせ合う

第 5 条 時間を大切にする

第 6 条 予想外を楽しむ

第 7 条 差異を認め合う

第 1 条 関心を寄せる

自身が学びたいと思う分野やテーマに対する興味や好奇心を持つことがまずは大切です。これまで目に入ってこなかったことにも自分なりの関心を持つことで、視野を広げることができます。関心を寄せることが主体的な学びを可能にし、自身の可能性を広げるきっかけとなります。

また、教員にも関心を持って、積極的に質問したり、研究テーマについて話し合ったりすることで、自身の視野を広げ、新たな研究テーマを発見することにつながります。その人となりに触れることもあなたのキャリアを考える糧になるはずです。

「知の探研」は、学生と学生、学生と教員の交流の機会となります。

第 2 条 協力を惜しまない

仲間と協力することで、一人では経験できない、より質の高い学習ができます。自身の考えを述べ、仲間と対話することで思考が研ぎ澄まされます。仲間の考えを聴くことは、異なる視点からの理解を深め、課題解決のための新たな手がかりを見つけることに役立ちます。

また、仲間を助けるばかりでなく、仲間に助けを求めることをためらわないことも大切です。お互いに協力を惜しまない関係性が相互の成長を促し、チーム全体の思いもよらない成果につながります。

「知の探研」は、学生同士で探究する課題を通じて、チームが持つ力を学ぶ機会となります。

第 3 条 方法を再考する

教員の話を読んだり、教科書を読んだりして覚えたことを鵜呑みにして再生することで多くを得ることはできません。

ある方法でうまく進展しない場合は、当初の考えに固執せず、柔軟に方法を再考することが大切です。また、新しい方法を試してみることに躊躇する必要はありません。こうしたアイディアは、仲間や教員との対話など意外なところから生まれることもあります。

学んできたことや経験、今学んでいることを駆使し、仲間と協力して新たな視点や方法を試しながら学んだことを自身の一部にすることが重要です。

「知の探研」は、大学での学びにふさわしい課題を通じて、新たな方法を身につける機会となります。

第 4 条 現在地を知らせ合う

現在地、つまり自身の状況や到達点を認めることは、これから何を学ぶべきかの目印になります。そして、仲間と互いの現在地を知らせ合うことが、より正確なこれからを把握することにつながります。

学習を進める上では、自身が達成したことを振り返り、今後どのような学習計画を立てるかを考える必要があります。

また、教員に自身の現在地を知らせることも大切です。学習状況を示すことで、課題に早期に対応できたり、専門的な知識や経験に基づく助言を得ることができるかもしれません。

「知の探研」は、チームで取り組む課題を提示し、学びの過程を大切にしながら、振り返りを習慣化する機会となります。

第 5 条 時間を大切にする

学習をする上で、時間に限りがあることを理解することが大切です。本を読む、考えるといった学習のステップにかかる時間をマネジメントし、集中力の高い学習を行うことで、より質の高い成果を獲得することができます。

チーム全員の学習であっても、構想を練る、実験する、成果をまとめる、検証・省察するといったステップにどの程度の時間をあてるか、時間を有効に使うことが重要となります。例えば、あなた一人に 4 コマの時間があるとき、6 人のチームであれば 24 コマの時間があることに気づきましょう。

「知の探研」は、授業内、授業外で学習時間の効果的・効率的な使い方を学ぶ機会となります。

第 6 条 予想外を楽しむ

何かと取り組むときに、予想される結果や仮説を持つことは大切なことです。しかし、そこに留まるだけでは成長は望めません。より多くを期待すれば、より多くを得ることができることを体験してください。

多様な考えが交わるチームでの学習は、あなたの想定を超えるきっかけを含んでいます。きっかけを見逃さず、好奇心を持って果敢に挑む勇気も必要です。

「知の探研」は、失敗を恐れず、果敢に挑戦する学習環境を大切にします。

第 7 条 差異を認め合う

言うまでもなく、一人一人は個性的であり、異なる意見や考え方を持っています。学習スタイルも同様です。それぞれに個性的であるからこそ、チームでの学習は、個人では経験できない豊かなものになります。

チームでは、それぞれの差異を認め合い、お互いに敬意を払いながら対話することが求められます。

それぞれの得意なことを生かすことも大切です、あえて得意でないことに挑戦してみることも価値のあることです。

「知の探研」は、差異を認め合い、お互いに敬意を払う学習環境を大切にします。